

小和田牧野農業協同組合 霧ヶ峰再開発について

平成21年6月22日

『霧ヶ峰蛙原花畑再生に向けての取り組み』

～牧草地を花畑に変える挑戦～

○ 再開発チームの目的

小和田牧野農業協同組合の経営の中核でもある霧ヶ峰の再開発について審議検討し、役員会に提案すると同時に再開発の作業の指導実施を担当する。

○ 再開発チームの発足経過

平成19年7月に「小和田牧野農業協同組合経営委員会」にて承認される。

平成19年10月に立ち上げ、平成20年3月30日の定例総会にて承認され具体的な活動がスタートする。

活動開始 平成20年5月4日

○ 事業目的

1、霧ヶ峰の再開発（牧草地を、お花畑に変える）

1、霧ヶ峰高原草原の在来種種植生復元

1、霧ヶ峰高原草原の維持保全

1、霧ヶ峰高原草原の各種団体への活動参画

○ 今までの活動経過

① 平成19年10月 霧ヶ峰地権者各種団体の許可を得て種の採取及び蛙原草原牧草地耕作作業を行う。耕地面積は、約800平方メートル位を耕す。

② 平成20年4月 牧草地の耕作。

③ 平成20年5月 蛙原草原地域内の耕作整備を行いマツムシソウ他の種蒔きを行う。

④ 平成20年7月 マツムシソウ他の種蒔き後の生育状況を確認する。一部の発芽を確認するが全体の成長はあまり見られない。

(ヤナギラン・ニッコウキスゲ・ヨツバヒトトリ・ワレモコウ・マツムシソウ・アキノキリンソウ・ユウガギク・アザミ・ヤマラッキョウ・マツヨイグサ・ハンゴンソウ・リンドウ・オキナエシ)

⑤ 平成20年7月 前回と違い、草花の生育はおおむね順調で多くの草花が数センチに伸び、ユウガギク、アキノキリンソウ、も小さな芽を出していた。ヤナギラン、オキナエシは鹿の食害が特に目立ち、今後の対策を考慮する必要がある。参加者全員による雑草の除去作業をする。

- ⑥ 平成20年9月 ヤナギラン、ニッコウキスゲ、ヨツバヒヨドリ、アザミ、ワレモコウの5種類の種の採取を行う。種の種類、採取量については秋の種蒔き時に検討することにした。
- ⑦ 平成20年10月 前回採種した種を、種類別に種蒔きを行う。牧草が密集し根の張りが強く又岩石が多く耕すのに苦戦を強いられた。
- ⑧ 平成20年10月 今回は初めて小型トラクターにての牧草除去作業をし、良く耕し再度5種類の種を蒔いた。
- ⑨ 平成21年6月6日 昨年秋に採種した沢山の花の種を花畑に追い蒔きした。
- ⑩ 平成21年6月20日 鹿食害防除の為、鹿除けネット張り作業を実施した。約80㎡を高さ1.5mのネットで張り廻り様子を見ることにした。
今回同時に、一昨年前に採種した種を現地に蒔くと同時に、里へ持ち帰り育苗したヤナギランが20cm～30cmに成長したのでそれを花畑に移植した約60本。(これは現地直播が良いかそれとも里で発芽させて移植したほうが良いのかの調査の段階であります)
花畑拡大の為、今回併せてとなりの花畑予定地をトラクターにて2回目の耕運作業を行い花畑の拡大を計画中であります。

○ 今後の検討課題と対応

- ① 一番の問題点は、鹿の食害に対する防護ということで、ネット張りを行ったので経過を見ながら、今後、発芽、生育、成長過程における専門家を交えて(長野県諏訪地方事務所環境課・霧ヶ峰自然保護センター職員)の指導を仰ぎ、霧ヶ峰蛙原牧草地を美しい草花が咲き見られ多くの方々の目を楽しませてくれ霧ヶ峰高原の魅力さをさらに高められるよう夢の実現に向けて挑戦していきたい。

小和田牧野農業協同組合 組合長 藤森順三
霧ヶ峰再開発チーム リーダー 藤森由一